資料（シリーズ2.1b）
小児腎がん／WCF
疾患・症状・治療・支援



ウィルムスがん財団
米国501(c)(3)認定非課税団体（EIN: 98-3478827）
712 H Street NE, Suite 2147, Washington DC, USA, 20002
info@WilmsFoundation.org | +1 (778) 514 5000

© 世界保健機関（WHO）。ウィルムスがん財団（WCF）との協力のもと、許可を得て使用しています。CureAllはWHOの「小児がんに関する世界的イニシアチブ（GICC）」の一環です。WHOは特定の団体、製品、サービスを推奨するものではありません。

www.WilmsFoundation.org



ウィルムスがん財団

小児腎がんの克服を目指して

疾患について

腎芽腫（一般にウィルムス腫瘍と呼ばれます）は、小児の腎臓に発生するがんの中で最も多く、小児がん全体では4番目に多いがんです。

主に幼児（通常5歳まで）が発症しますが、年長の子どもや10代の若者、ときには成人にもみられます。

腫瘍は最初に腎臓で増殖し、やがて腎臓自体よりも大きくなります。通常、腫瘍と腎臓の両方を摘出する必要があります。進行すると肺、肝臓、骨へ転移し、命に関わることもあります。

早期発見できれば生存率は高いものの、何年も診断されず、厳しい経過をたどる子どもも少なくありません。化学療法、放射線療法、手術など、生命に危険を伴う大がかりな治療が必要になることがあります。



支援

ウィルムス腫瘍の治療は、小児がん専門施設や腎腫瘍専門の診療体制で行うことが望まれます。適切な治療が重要なのは、医療体制が整ったプログラムでは生存率が85～90%を超え、専門施設で治療した場合に結果が大幅に改善するためです。ウィルムス腫瘍が疑われる場合、ご家族は直ちに医療チームに連絡してください。

症状

ウィルムス腫瘍は主に3～4歳の子どもに発症しますが、10代の子どもや、ときには成人にもみられます。

腫瘍は最初に腎臓で増殖し、やがて腎臓自体よりも大きくなります。通常、腫瘍と腎臓の両方を摘出する必要があります。進行すると肺、肝臓、骨など全身の他の部位へ転移し、命に関わることもあります。

症状はさまざまです。多くの子どもでは、症状が重くなる前に腫瘍が見つかります。最も多い徴候は、痛みを伴わない腹部の腫れやしこりで、入浴や着替えの際に保護者が気づくことがよくあります。

そのほか、腹痛、発熱、疲労、食欲低下、体重減少などがみられることがあります。腫瘍が腎機能に影響することで高血圧になる子どももいます。また、血尿や排尿の変化が生じることもあります。

頻度は低いものの、肺に転移すると、長引くせきや息切れなどが生じる場合があります。これらは一般的な小児の病気の症状に似ているため、持続する徴候や普段と異なる徴候があれば、早期診断のために速やかな診察を受けることが重要です。



治療

早期に発見すれば比較的治療しやすい病気です。しかし、診断が遅れると治療が複雑になり、化学療法、放射線療法、手術を含む大がかりな治療が必要です。治療が何年にも及ぶこともあります。



治療は子ども一人ひとりに合わせて慎重に計画され、通常、小児がんの専門チームが複数の治療法を組み合わせて行います。治療の基本は手術で、多くの場合、腫瘍と患側の腎臓を取り除く腎摘除術を行います。

化学療法は、術後に残ったがん細胞を死滅させるため、または術前に腫瘍を小さくして安全に摘出するために行います。使用する薬剤と治療期間は、がんの病期と腫瘍の組織型によって異なります。進行した病期や予後不良の組織型など、リスクの高い場合には、再発の危険を減らすために放射線療法を行います。

ウィルムスがん財団（WCF）は、小児腎がんの影響を受ける子ども、家族、医療機関を支援し、そのニーズを代弁する慈善団体です。この資料は教育目的で作成され、カナダ、米国、欧州の国際的な小児がん診療基準に基づいています。

www.WilmsFoundation.org

+1 (778) 514 5000 | info@WilmsFoundation.org